

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																										
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																																										
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																										
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																																										
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士																																								
工業	工科技術専門課程		土木・造園科			平成25年文部科学大臣 告示号外第17号		-																																								
学科の目的		土木・造園に関する基礎的な知識と技術（専門力）を身につけるとともに、コミュニケーション能力や問題発見・解決能力等（人間力）を高めることを図り、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。																																														
認定年月日		平成27年2月17日																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																																				
2 年	昼間	1740		930				1545																																								
		時間																																														
生徒総定員		生徒実員		留学生数（生徒実員の内数）		専任教員数		兼任教員数		総教員数																																						
80人		114人		7人		4人		15人		19人																																						
学期制度		■前期：4月1日～10月11日 ■後期：10月12日～3月31日				成績評価		■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																																								
長期休み		■学年始：4月1日～ ■夏 季：8月10日～8月15日 8月31日～9月7日 ■冬 季：12月23日～1月8日 ■学年末：3月18日～3月31日				卒業・進級 条件		進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																																								
学修支援等		■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 担任・学科教員、学生相談室にて指導に当たる。欠席者には担任から電話で連絡する（保護者にも）ことを基本とし、指導している。				課外活動		■課外活動の種類 卒業制作展、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動： 有																																								
就職等の 状況※2		■主な就職先、業界等（令和元年度卒業生） 大豊建設株式会社 西尾レントオール株式会社 株式会社昭立造園 第一園芸株式会社 飛鳥建設株式会社 ■就職指導内容 担任とキャリアサポートセンターの連携による履歴書やエントリーシート作成指導、面接等の指導を行っている。 ■卒業者数 43 人 ■就職希望者数 40 人 ■就職者数 40 人 ■就職率 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 ： 93.3 % ■その他 ・大学編入： 1人 ・短期大学進学： 1人 ・プロボクサーデビュー： 1人 (令和 元 年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定 等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>2級土木施工管理技士（学科試験）</td><td>①</td><td>22人</td><td>22人</td></tr><tr><td>2級造園施工管理技士（学科試験）</td><td>①</td><td>20人</td><td>10人</td></tr><tr><td>2級造園技能士</td><td>①</td><td>11人</td><td>3人</td></tr><tr><td>3級造園技能士</td><td>①</td><td>18人</td><td>12人</td></tr><tr><td>測量士補</td><td>①</td><td>6人</td><td>3人</td></tr><tr><td>玉掛技能講習</td><td>①</td><td>32人</td><td>32人</td></tr><tr><td>小型移動式クレーン運転技能講習</td><td>①</td><td>28人</td><td>28人</td></tr><tr><td>ビジネス能力検定3級</td><td>③</td><td>43人</td><td>40人</td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級土木施工管理技士（学科試験）	①	22人	22人	2級造園施工管理技士（学科試験）	①	20人	10人	2級造園技能士	①	11人	3人	3級造園技能士	①	18人	12人	測量士補	①	6人	3人	玉掛技能講習	①	32人	32人	小型移動式クレーン運転技能講習	①	28人	28人	ビジネス能力検定3級	③	43人	40人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																													
2級土木施工管理技士（学科試験）	①	22人	22人																																													
2級造園施工管理技士（学科試験）	①	20人	10人																																													
2級造園技能士	①	11人	3人																																													
3級造園技能士	①	18人	12人																																													
測量士補	①	6人	3人																																													
玉掛技能講習	①	32人	32人																																													
小型移動式クレーン運転技能講習	①	28人	28人																																													
ビジネス能力検定3級	③	43人	40人																																													

中途退学の現状	■中途退学者 3 名 ■中退率 2.6 % (休学者1名含まず) 平成31年4月1日時点において、在学者116名（平成31年4月1日入学者を含む） 令和2年3月31日時点において、在学者110名（令和2年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更・経済的事情 等 ■中退防止・中退者支援のための取組 懇談会・電話等による保護者との情報共有を図っている。担任および科長・主任による面談を実施。 経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け、個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。また、休学者にも復学（転科等）の指導・助言・相談も行っている。
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ・片柳学園入学金免除制度・若きつくりびと奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生 ■専門実践教育訓練給付： 給付対象
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審 https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日（※1）

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（１）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業が必要な人材を育成するために、企業へのヒアリングを随時行い、土木・造園分野の実務に関する知識や技術を調査し、授業科目の改善や内容の工夫を行う。更に、授業科目のシラバスを基に科目担当教員と企業講師の間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。現在の建設業界に必要なスキルを身につけられるよう、常に授業内容や方法を検証することにより、実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

（２）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各３名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

（３）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
鈴木 博之	明星大学理工学部 教授	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（１年）	①
元石 真祐美	成友興業株式会社 取締役 総務企画部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（１年）	③
橘 裕憲	株式会社稲治造園工務所 管理本部 総務部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（１年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（１年）	
上田 耕作	日本工学院八王子専門学校 科長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日（１年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（１企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年２回 （３月・９月）

（開催日時（実績））

第１回 令和元年８月26日 13：00～15：00

第２回 令和２年８月23日

（５）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「間違っただータを入力しても、コンピュータは答えを出す。基礎が大事。手計算をしたり、場数を踏まないと、間違っていることを判断できるような感性が育たない。」という意見をいただいたのを受け、i-Constructionなどの最新技術への対応と並行し、改めて現在は現場で使われる機会の少なくなった測量技術も含め、基礎的な技術の習得の重要性を講師と共有しシラバスに取り入れた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係																	
（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 建設業界の中の土木・造園の分野に関する実践的な実習・演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打ち合わせにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。																	
（2）実習・演習等における企業等との連携内容 企業等からの派遣講師と毎回の実習内容について打ち合わせを行い、目標を設定する。実習・演習を実施後、目標に対してどこまで達成できたかを確認し、評価を行う。																	
（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。 <table> <tr> <th>科 目 名</th><th>科 目 概 要</th><th>連 携 企 業 等</th></tr> <tr> <td>測量実習</td><td>測量機器の取扱いや測量によって得られたデータの活用などを実習を通じて学ぶ。</td><td>松浦技術士事務所</td></tr> <tr> <td>造園実習</td><td>土壌の特性、肥料の配合、地ごしらえ、樹木の植栽、草花の植栽、地被植物の植栽の工法について実習を通じて学ぶ。</td><td>株式会社 日動計画</td></tr> <tr> <td>C A D 製図 2</td><td>C A D による設計図面の作成方法を学ぶとともに、3次元C A Dの基礎的な操作を学ぶ。</td><td>有限会社 水都環境</td></tr> <tr> <td>造園設計</td><td>造園設計の基本的な考え方および図面による表現方法を習得し、条件に沿った設計について、実習を通じて学ぶ。</td><td>有限会社 春秋設計工房</td></tr> </table>			科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等	測量実習	測量機器の取扱いや測量によって得られたデータの活用などを実習を通じて学ぶ。	松浦技術士事務所	造園実習	土壌の特性、肥料の配合、地ごしらえ、樹木の植栽、草花の植栽、地被植物の植栽の工法について実習を通じて学ぶ。	株式会社 日動計画	C A D 製図 2	C A D による設計図面の作成方法を学ぶとともに、3次元C A Dの基礎的な操作を学ぶ。	有限会社 水都環境	造園設計	造園設計の基本的な考え方および図面による表現方法を習得し、条件に沿った設計について、実習を通じて学ぶ。	有限会社 春秋設計工房
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等															
測量実習	測量機器の取扱いや測量によって得られたデータの活用などを実習を通じて学ぶ。	松浦技術士事務所															
造園実習	土壌の特性、肥料の配合、地ごしらえ、樹木の植栽、草花の植栽、地被植物の植栽の工法について実習を通じて学ぶ。	株式会社 日動計画															
C A D 製図 2	C A D による設計図面の作成方法を学ぶとともに、3次元C A Dの基礎的な操作を学ぶ。	有限会社 水都環境															
造園設計	造園設計の基本的な考え方および図面による表現方法を習得し、条件に沿った設計について、実習を通じて学ぶ。	有限会社 春秋設計工房															
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係																	
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。																	
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名：「ICT施工現場見学会」 期間：令和元年7月23日 （連携企業等：東京都建設局、株式会社藤紋、吉松建設工業株式会社、株式会社埼玉測機社） 対象：土木・造園科 専任教員 公園の造成工事におけるICT活用の現場の見学し、造園を含む建設業界のトレンドについて学んだ。地上レーザースキャナ、GNSS測位、トータルステーション（ワンマン）測量等、最先端の測量技術について実機を前に説明を受け、今後の建設現場の向かう方向性についての知見を得た。 研修名：「全国専門学校土木教育研究会全国大会」研究発表会 （連携企業等：大林道路(株) 工務部 河西高志氏） 期間：令和元年8月1日 対象：全国専門学校土木教育研究会 会員校教員 大林道路(株)の河西氏により、演題「ICT全面活用舗装工事の初弾工事における施工報告」の研究発表があった。これまで施工の一部に取り入れられてきたICTを全面的に取り入れた初の工事の報告で、今後の建設現場の目指すところを垣間見ることができた。 研修名：「アスファルト合材プラント見学会」 （連携企業等：前田道路西東京合材工場） 期間：令和元年7月24日 対象：土木・造園科 専任教員 合材のプラントおよび試験室の見学をし、舗装工事の歴史等についての講習を受講した。																	

研修名：「CIM講習会」

（連携企業等：福井コンピュータ株式会社）

期間：令和2年1月30日

対象：土木・造園科 専任教員

建設現場におけるCIM活用の現状と今後についての講習を受け、CIMソフトのデモンストレーション見学、VR技術を活用した安全衛生教育を体験した。

研修名：「重要文化財庭園修復 施工報告会」

期間：令和2年1月30日

（連携企業等：里美園 佐藤武久氏）

対象：土木・造園科 専任教員

名勝・重要文化財に指定されている浅草寺伝法院庭園の改修工事についての、多くの現場写真を見ながらそのポイントについての講習を受講した。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「テクノロジーカレッジ夏期教員研修会 効果的な就職支援を目的とした文書作成・読解力指導研修」

（連携企業等：日本漢字能力検定協会 小林氏 ）

期間：令和元年8月21日

対象：テクノロジーカレッジ専任教員（土木・造園科専任教員）

学生の就職活動等を効果的に支援するための日本語の文書作成および読解の指導について。社会人に必要な能力としてコミュニケーション能力が上位に挙げられており、その基礎となる言語能力の涵養は専門学校においても重要な課題であると感じた。

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：「最新測量技術講習会」

（連携企業等：西尾レントオール株式会社）

期間：時期未定

対象：土木・造園科 専任教員

最新測量技術についての講習会

研修名：「土木技術講習会」

（連携企業等：東京都鉄筋業協同組合）

期間：令和2年10月1日

対象：土木・造園科 専任教員

鉄筋組立技術講習

研修名：「造園用CAD講習」

（連携企業等：株式会社ユニマットリック ）

期間：令和2年7月

対象：土木・造園科 専任教員

造園用CAD（RIKCAD）の操作および活用法についての講習

②指導力の修得・向上のための研修等 研修名：「AIアセスメントツールの活用について」 （連携企業：株式会社タレントアンドアセスメント） 期間：令和２年７月 対象：テクノロジーカレッジ専任教員（土木・造園科専任教員） AI（人工知能）を活用した面接システムについて	
４．「学校教育法施行規則第１８９条において準用する同規則第６７条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
（１）学校関係者評価の基本方針 専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。 学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。	
（２）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（１）教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
（２）学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
（３）教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
（４）学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
（５）学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
（６）教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
（７）学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
（８）財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
（９）法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守（33）個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
（１０）社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献（37）ボランティア活動
（１１）国際交流	
※（１０）及び（１１）については任意記載。	
（３）学校関係者評価結果の活用状況 Society 5.0を踏まえた教育が必要との意見から、専門分野だけでなくインターネットなどのIT技術を中心に修得できるような学科・カレッジを超えたラボレーションを強化するとともに、コミュニケーションやビジネススキル向上、部分で積極的に勉強するようなアクティブラーニングの環境を整えるため、地域連携事業を積極的に推進する。 コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用し易いIT環境の整備を早急に進めていく。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、感染防止対策に万全を尽くしていく。 教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるよう教員の研修体制を整えていく。 募集活動においては、オンライン面談など将来を見据えた対策も早期に計画する。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を計画していく。	

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング 株式会社 グループ マネージャー)	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	卒業生／IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社ヌーベルバーグ 代表取締役社長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ()) 令和2年9月30日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和元年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程土木・造園科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ビジネススキル	社会人に必要な一般常識やマナーを学ぶ。また、ビジネス能力検定の対策も行う。	1 ・ 前	30	2	○			○			○	
○			キャリアデザイン1	就職するための心構え、自分にあった就職先の選び方など、就職活動に必要な事柄を学ぶ。	1 ・ 後	30	2	○			○		○		
○			土木概論	土木工学が安心・安全かつ持続可能な人間社会を築いていくために必要な学問である事を過去の事例や現代社会の状況から学習する。	1 ・ 前	30	2	○			○			○	
○			構造力学1	土木で使用する数学の基礎と、構造物の基本要素であるはりの力学について学ぶ。	1 ・ 前	30	2	○			○			○	
○			土木材料	土木工事で使用する材料として、コンクリート、骨材、鋼材、歴青材料等の特性について学ぶ。	1 ・ 後	30	2	○			○			○	
○			造園概論	造園とは何か、造園の歴史、造園にかかわる基本的な技法について学ぶ。	1 ・ 前	30	2	○			○			○	
○			植物園芸学	植物の生態、植生分布、園芸の歴史や技術、緑地管理の基礎について学ぶ。	1 ・ 前	30	2	○			○		○		
○			造園材料	造園で使用する材料として、石材、木材、繊維材料、植物の種類と特性について学ぶ。	1 ・ 後	30	2	○			○			○	
○			施工管理計画1	建設工事に携わる施工管理者は施工計画を建て円滑に工事を進めなければならない。そこで建設工事に係る建設一般、共通工学等を学び施工管理（品質、安全、工程、原価）を理解する。	1 ・ 後	30	2	○			○			○	○
○			施工管理技士資格対策1	土木および造園の2級施工管理技術検定学科試験の対策を行う。	1 ・ 後	30	2	○			○		○	○	

○		製図基礎	土木・造園図面の写図等を通して、その読み方や機能を学び、製図の基礎を身につける。	1・前	60	2			○	○		○		
○		測量実習	測量の考え方、各種測量器具の基本操作などについて、実習と座学を通じて学ぶ。	1・前	60	2			○	○		○	○	○
○		土木実習	実際の地状況を把握するため、簡単な器具を使って平坦地や傾斜地の測量を行い、測量で得られた距離や高さなどのデータから平面図や断面図を作成する。水平や鉛直（垂直）距離の感覚を身に付け、測量データから得られる成果物の大切さを理解する。また、土木造園の基本的な材料である、コンクリートの実験と丸太及び単管パイプの構築を行う。	1・前	60	2			○	○		○		
○		造園実習	土壌の特性、土壌改良、樹木・草花の取扱い、芝生の造成等について、実習を通じて学ぶ。	1・前	60	2			○			○	○	○
○		基礎デザイン	土木や造園の模型制作の基礎を、実習を通じて学ぶ。	1・後	60	2			○				○	
○		CAD－CIM1	コンピュータの基礎知識、図面を描くCADの操作について学ぶ。	1・前	60	2			○	○		○	○	
○		施工実習	この施工実習は前期に履修した土木実習、造園実習、測量実習で学んだ技術を基に、より高度で専門性の高い実習を行うことで建設物構築の実践的なスキルを修得できる。	1・後	60	2			○	○		○	○	
○		施工実習	造園実習で学んだことを発展させ、より高度な技術を学ぶ。石や竹など自然の素材の扱い方を理解し、さまざまな技術を組み合わせて一つの庭園世界を構築する流れを体感する。	1・後	60	2			○	○		○	○	
○		パソコン実習1	文書作成ソフト、表計算ソフトなどの基本操作を学ぶ。	1・後	30	2			○	○		○		
	○	構造力学2	構造力学1において静定構造（単純ばり）をモデルに反力と応力について学んだ。構造力学2でははりが予想される荷重に対して、安全な構造であるかを部材の断面にて検討しなければならない。よって断面の検討は部材に生じる最大応力度に対しての断面積、断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数などの諸定数による事を学び構造設計の基礎を理解する。	1・後	30	2	○			○		○		

	○	造園技術 1	国内外の造園技法、植栽管理等について学ぶ。	1・後	30	2	○						○		
	○	土質工学	土木造園は、道路・水道・公園・緑地など様々なものが対象であり、その多くは地盤の掘削や盛土、植生などの土に関係している。土の種類・状態・性質を理解することで、実際の工事や施工計画、設計などに活かせる。	1・後	30	2	○				○			○	
	○	造園計画	庭園・エクステリアのデザイン手法、造園の施工計画などについて学ぶ。	1・後	30	2	○				○		○		
	○	C A D - CIM2	CIM (Construction Information Modeling/Management) の基礎として 3D ツールの操作を学ぶ。	1・後	60	2				○	○			○	○
	○	造園設計	造園設計の基本的な考え方を習得し、条件に沿った設計について、実習を通じて学ぶ。	1・後	60	2				○	○			○	○
	○	土木材料実験	土木工事は多種多様な社会基盤を構築する。安心で安全な品質管理が求められるため、土木材料実験を行いその品質特性を理解する。	1・前	60	2				○	○		○		
	○	3 級造園技能士資格対策	3 級造園技能士合格のための対策を行う。	1・前	60	2				○	○			○	
		○ 測量士補資格対策 1	測量士補合格のための対策を行う。	1・後	30	2	○				○			○	
		○ 技術系公務員対策 1	公務員試験に向けて、教養試験および専門試験の対策を行う。	1・後	30	2	○				○			○	
		○ 建設機械 1	土木施工、造園施工で使用する建設機械の免許を取得するための講習を実施する。	1・前	30	1				○				○	
		○ 建設機械 2	土木施工、造園施工で使用する建設機械の免許を取得するための講習を実施します。	1・後	30	1				○			○	○	
		○ 校外研修 1	国内外の研修を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	1・後	30	1				○			○	○	
		○ インターンシップ 1	企業等のインターンシップへの参加を通じて、実践的な知識や技術を修得する。	1・前	30	1				○			○	○	○
		○ インターンシップ 2	企業等のインターンシップへの参加を通じて、実践的な知識や技術を修得します。	1・後	30	1				○			○	○	○

○		ビジネススキル3	就職するための心構え、自分にあった就職先の選び方など、就職活動に必要な事柄を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
○		構造力学2	構造力学1において静定構造（単純はり）をモデルに反力と応力について学んだ。構造力学2でははりが予想される荷重に対して、安全な構造であるかを部材の断面にて検討しなければならない。よって断面の検討は部材に生じる最大応力度に対しての断面積、断面一次モーメント、断面二次モーメント、断面係数などの諸定数による事を学び構造設計の基礎を理解する。	2・前	30	2	○			○		○		
○		水理学	水の流れの基礎原理と基本的現象についての理解を深め、治水・利水・環境管理を行う上で必要となる管路や開水路の設計技術の基礎を得ることを狙いとする。	2・前	30	2	○			○			○	
○		造園技術3	造園の施工管理、施工方法、関連法規等について学ぶ。	2・後	30	2	○			○			○	
○		土木施工管理技士資格対策	土木工事に携わる技術者に必要な2級土木施工管理技士の学科試験に合格するための学力をつける。	2・前	60	4	○			○			○	
○		造園施工管理技士資格対策	造園施工管理技術検定2級の学科試験合格のみならず、造園工事の実務者に必要な工事と施工管理に不可欠な基礎力を獲得する。	2・前	60	4	○			○			○	
○		施工演習	2級土木・造園施工管理試験（学科）に合格する為に模擬問題を解いて合格するための実力をつける。	2・後	30	2	○			○			○	
○		建設経理	基礎的な建設業簿記・原価計算を学び、建設業経理検定合格のための対策を行う。	2・後	30	2	○			○			○	
○		積算演習	ひとつの工事を完成させるのにどのくらい費用がかかるのか、その工事費を算出することを積算あるいは見積りという。土木工事、造園工事で使用する材料数の求め方、工事代金の項目、内訳などについて学ぶ。	2・後	30	2	○			○			○	○
○		防災環境学	台風や地震などによる自然災害と日本人はどのように戦い、対応し、どのようにかわってきたのか。地球を取り巻く環境問題や、地震・津波・土砂災害に対する防災について学ぶ。	2・後	30	2	○			○			○	
○		建築概論	建築構造、計画、法規等について学ぶ。	2・後	30	2	○			○			○	

○		C A D 製図 2	3次元CADツールの操作を学ぶ。	2・前	60	2			○	○			○	○
	○	土木演習 1	1年次の土木実習・測量実習で学習した内容を発展させ、実際に土木構造物を構築する過程を理解すること、日本の社会資本を整備する上で、建設工事に関わることの重要性を理解することを目指し、実習を行う。	2・前	60	2			○	○			○	○
	○	土木演習 2	i-constructionとは何かを理解し、UAVを用いた起工測量や3次元データを活用して、土木構造物を構築する過程を演習することにより、建設業界で必要とされる技術者としての基礎を習得することを目指し、実習を行う。	2・後	60	2			○	○			○	○
	○	造園演習 1	植栽、石組、竹垣など造園・外構の施工について、実習を通じて学ぶ。	2・前	60	2			○	○			○	
	○	造園演習 2	剪定、刈込など造園植物や緑地の管理について、実習を通じて学ぶ。	2・後	60	2			○	○			○	○
	○	2級造園技能士対策講座	2級造園技能士合格のための対策を行う。	2・前	90	3			○	○			○	
	○	火薬取扱資格対策講座	火薬類取扱保安責任者試験合格のための対策を行う。	2・前	30	2	○			○			○	
	○	公務員対策 2	土木系技術者の公務員試験に合格する為に過去に出題された試験問題を解きながら傾向と対策等を学習する。	2・前	30	2	○			○			○	
	○	校外研修 2	現場見学やインターンシップを通じて、実践的な知識や技術を修得する。	2・前	15	0			○			○	○	
○		卒業制作	2年間の集大成として構造物や庭園などの計画・設計～模型制作・施工などに取り組み、成果をまとめる。	2・後	240	8			○	○			○	○
合計			55 科目	2475単位時間 (114単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1470時間(66単位)および選択科目270時間(12単位)以上取得し、合計1740時間(78単位)以上取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。